

[年度] 平成20年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] イチゴ紙ポット育苗時の送風処理による花芽分化促進効果

[要約] イチゴの紙ポット育苗において、送風処理を行うと、送風処理を行わない場合に比べ、昼間の培地温度が2～5℃低く推移し、「さちのか」では花芽分化が3～5日早くなる。

[キーワード] イチゴ、育苗、紙ポット、花芽分化促進、送風

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

イチゴの紙ポット育苗では、従来のポリポット育苗に比べて、培地温度が低く推移し、花芽分化時期が早くなることが報告されている。紙ポットの培地温度低下には、ポット表面からの水分の蒸発潜熱が関係している。そこで紙ポットへの送風処理により、水分蒸発を促し、さらなる花芽分化促進技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1．晴天日の昼間の培地温度は、送風処理を行わない場合でも、紙ポットがポリポットに比べ3～5℃低く推移するが、紙ポットに送風処理を行うと、さらに2～5℃低く推移する(図1)。
- 2．「さちのか」の花芽分化時期は、送風処理を行わない場合でも、紙ポット苗がポリポット苗に比べ、5日程度早い。紙ポットに送風処理を行うと、送風処理を行わない場合に比べ、さらに3～5日早まる(表1)。
- 3．紙ポット苗への送風処理の有無による、定植時の苗の生育への影響はみられない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．ハウスなどで大規模に紙ポット育苗を行う際は、循環扇などを利用して、送風や空気の流れを作ることが花芽分化促進効果を高めるうえで有効である。
- 2．紙ポットへ送風処理により培地が乾きやすくなるので、適切な灌水を行うように注意する。

[具体的データ]

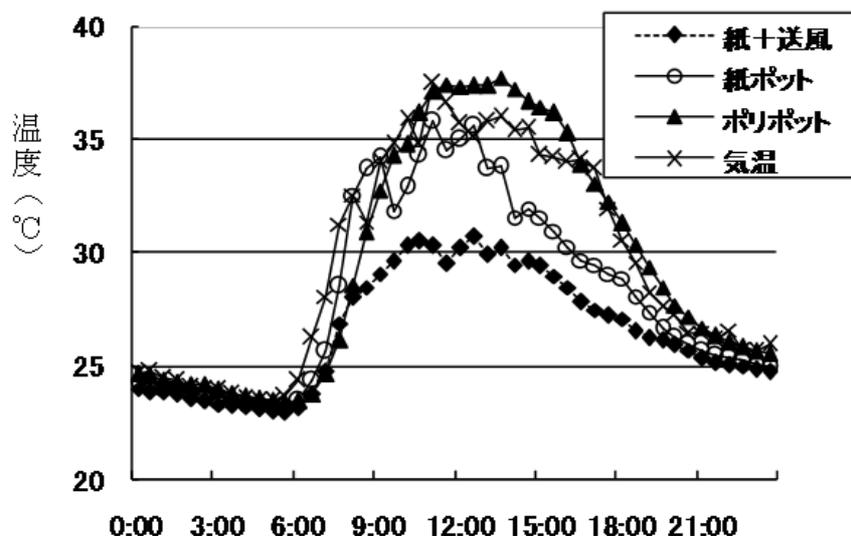


図1 各処理苗の培地温度の推移

注) 測定日: 2007年8月15日、天気: 晴、測定位置: ポット中央部、
 深さ3cm、送風処理: 家庭用の扇風機を首振り状態で用いた。
 処理期間: 8月10日~9月20日の6時~18時、風速: 0.1~5.5m/s
 育苗は雨よけハウス内で行った。

表1 各処理苗の花芽分化程度

	9月10日	9月14日	9月19日
紙+送風	2, 2, 0	3, 2, 1	5, 3, 2
紙ポット	0, 0, 0	2, 1, 1	2, 2, 0
ポリポット	-	-	0, 0, 0

注) 品種: 「さちのか」花芽分化指数: 0 未分化、1 花芽分化初期
 2 花芽分化期、3 花房分化期、4 萼片形成初期、5 萼片形成期

表2 各処理苗の生育状況

処理区	葉柄長 (cm)	小葉長 (cm)	小葉幅 (cm)	クラウン 径(mm)	葉色 (SPAD)
紙+送風	3.7	4.9	4.0	6.91	32.8
紙ポット	4.2	5.2	3.8	6.52	32.4
ポリポット	4.6	5.5	4.2	7.86	36.8

注) 品種: 「さちのか」, 調査日: 9/19, 葉柄長・葉色は新生第3葉を測定。
 小葉長, 小葉幅は新生第3葉の頂小葉を測定。

[その他]

研究課題名: 果菜類の産地レベルアップ技術開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成 17 ~ 19 年

研究担当者: 田中寿弥、西森裕夫、東卓弥

発表論文等: 園芸学会 (予定)